

茨城県高等学校審議会 第2回専門部会審議概要

1 参考人の意見聴取

次の5人の参考人から、意見を聴取しました。

参考人氏名（敬称略：五十音順）

島田 由瑞子 つくば市立手代木中学校教諭
曾我 日出夫 茨城大学教育学部教授
沼田 俊明 県立常陸大宮高等学校校長
原 清勝 大子町立大子中学校校長
正木 則久 茨城県PTA連絡協議会副会長

聴取事項及び主な意見は次のとおりです。

1 県立高等学校の在り方

国際化や情報化の一層の進展，科学技術の発展，産業構造や雇用形態の変化など，高等学校教育を取り巻く社会環境が著しく変化する中で，生徒の能力・適性，興味・関心，進路等が多様化しています。

- (1) このような状況の中で，本県の県立高等学校の果たすべき役割について，あなたのご意見を伺います。県立高等学校の現状についてのご意見があれば，併せて伺います。

ア 時代の進展，社会の変化，保護者及び生徒のニーズに対応した特色ある学校をつくることにより，地域の教育・文化を支える人材の育成を担うべきである。

イ 生涯学力，コミュニケーション能力，自己評価能力，問題解決能力，自己管理能力等を育成するとともに，より専門的な知識等を習得することにより，社会を担う人材を育てることが期待される。

ウ それぞれの学校の歴史や卒業生の状況を背景とし，中学生や地域社会の期待や要請を基に，教育目標や教育課程を定めて生徒の教育を担っている。

エ 高等学校の果たす重要な役割としては，生徒が進路を考えていく上で，本人の適性について，本人や保護者に明確に伝えていくことにあると考える。

オ 県立高校の社会的役割は，社会のさまざまな層に必要な人材を育てることであり，その中で，現在特に留意すべきことは科学技術立国としての人材育成だと考える。

カ 実体験的な内容が優先された教育が行われるべきだと思うが，現状は知的理解に力点を置きすぎた内容になっているように思われる。

(2) 本県の中学生の高校進学に係る現状について、あなたのご意見を伺います。地域や学校の現状を踏まえた具体的なご意見でも結構です。

- | |
|---|
| <p>ア 高等学校等への進学率が98%になったことが示すように、高等学校の義務教育化が一層進んでいる。</p> <p>イ 単位制高校や総合学科の高校等の新しいタイプの高等学校設置により、生徒の県立高等学校への選択肢が広がり、将来のことを考え、自分にあった進路を選択しようとする生徒が増えてきた。</p> <p>ウ 全県一通学区となり、中学生の高等学校選択の範囲が拡大されて、生徒の通学範囲は広域化、分散化している。</p> <p>エ 高等学校が教育理念をしっかりと打ち出すとともに、中学校ではそれをよく理解した上で生徒の進路指導を進めるべきだと考える。</p> <p>オ 学校が各人の成長を助けるものであるためには、何かを得させることより、「活動の場」を与えるということに力点を置くべきである。「活動の場」として、いくつかのタイプの高校が用意されており、各人の特質に合わせてそれが選べるというのが理想的である。</p> |
|---|

2 県立高等学校の再編整備

本県の中学校卒業生については、平成元年3月の約49,000人をピークとして減少し、平成19年3月には約30,000人となりました。

県では、このような状況に対応するため、県立高等学校の学級減を毎年行うとともに、再編整備実施計画を策定して学校の統合等を進めていますが、本県の中学校卒業生数は、今後も減少傾向が続き、平成32年3月には約25,000人に減少することが見込まれています。

(1) 県教育委員会では、平成11年の高等学校審議会答申に基づき、1学年4学級から8学級(160~320人)を県立高等学校の適正規模としています。

県立高等学校の適正な規模について、あなたのご意見を伺います。

- | |
|---|
| <p>ア 1学年4学級から8学級(160~320人)を県立高等学校の適正規模と考える。</p> <p>イ 少人数指導を取り入れた30人程度の学級で、生徒の適性や興味・関心にあっただきめの細かい指導が必要になると思われる。1学級30人程度の学級編制とする場合、適正規模については、学級数の下限を4学級とし、生徒数を120~320人程度とすることも考えられる。</p> <p>ウ 学年経営や学習指導の点から、また、活気ある生き生きとした教育活動を行うという点から、県立高等学校の適正な規模は6学級前後と考える。</p> <p>エ 1学年2学級ぐらいの規模でも何とかやれるのではないかと。無気力な生徒を活性化する実験校的なものなど、特殊目的の小規模校が少数あってもよい。適正規模を定めるのは必要だとは思いますが、すべてをそれに合わせて学校再編を考えるのはよくないと感じる。</p> |
|---|

- (2) 今後の中学校卒業生数の推移については、大きく減少が見込まれる地域がある一方、増加が見込まれる地域もあり、市町村によって増減の割合に大きな差が見込まれます。県立高等学校の適正な配置について、あなたのご意見を伺います。

ア 各地域の中学校卒業生数の推移や進学状況を見るとともに、地域の要望を踏まえ、地域間の格差をなくすこと等を念頭に置きながら、適正な配置になるよう県立高等学校を再編成すべきである。

イ つくば市のT X沿線の地域のように人口が増加しているような場合には、学科や教育課程に特色ある高等学校を新設したり、既設の学校においては将来的に学級数を増やすことも視野に入れる必要があるのではないかな。

ウ 学校の配置には生徒の通学手段についても配慮がなされる必要がある。

エ 鹿島灘高校、結城第二高校のような学びのスタイルを自分で選択できるフレックススクール（多部制定時制高校）を他の地域にも設置し、多様化する生徒のニーズに応える必要がある。

オ 通学時間や通学手段の問題等で学校の選択が限定される地域があることや、経済的な理由や健康上の問題により自由に学校を選択できない生徒や保護者もいること等を踏まえて、県立高等学校の配置について検討すべきである。

カ 総合学科への学科改編や統合による複数学科の併置等によって、選択幅の拡大を図り、多様な生徒を受け入れて適正規模を維持できるようにした方がよい。

キ 高校への志望理由が明確であるということが重要であり、学校の配置を特に変える必要はない。

ク 統合などの際、その学校がその地域でどのように扱われているかも考慮すべきであり、地域との連携が良好な場合は多少採算が悪くても学校を残して、連携の良さを教育に活かすことを考えた方がよいのではないかな。

- (3) 県教育委員会では、適正規模の維持が見込まれない学校及び統合した方が教育力の向上が期待される学校については、統合の対象とすることとしています。また、統合する際には、新たな学校を創設するという観点から教育条件を整備することなどの点に配慮することとしています。

県立高等学校の統合の在り方について、あなたのご意見を伺います。

ア 適正規模の見込まれない学校及び統合した方が教育力の向上が期待される学校については統合すべきであるが、山間過疎地域における統合には、特段の配慮をすべきである。

イ 多様で活力ある教育活動をしていくためには統廃合は必要であるが、その際、生徒数や地域の実情に合った特色のある学校の設置が必要である。

ウ 生徒数の減少の激しい地域の学校では、人口集中が見られる地域の学校以上に地域と連携し地域の人材等を活用した教育実践を工夫をすることが必要である。

エ 生徒数が適正規模を大きく下回ってしまうと、生徒一人一人のニーズに応える教育活動の展開や活力ある学校経営に支障を来すことになるので、教育活動を維持するために近隣校との統合は必要である。

オ 高等学校が地域の教育・文化の拠点、人材育成の拠点として果たしてきた役割

は大きく、特に中学校の生徒や保護者には大きな影響があるので、統合にあたっては周至な準備と十分な説明が必要である。

カ 統合の在り方については、「県立高等学校再編整備の基本計画」（平成14年6月）に示されている事項を継続して配慮していただきたい。

キ 統合した後が大切で、学校の校舎や施設等はそのままであっても、先生方のやる気や理念に基づいた教育体制の改革によって学校の教育力は向上し、学校は生まれ変わる。

ク 適正規模の維持は、教育内容の向上とはそれほど強く関係しないのではないかと思う。ただし、統合などにより1校あたりの予算を大きくし、積極的な改革を実施することはあっていいと考える。

参考

「県立高等学校再編整備の基本計画」（平成14年6月茨城県教育委員会）

4 県立高等学校の適正規模・適正配置

(2) 県立高等学校の統合

統合する際には、以下の点に配慮して進めるものとします。

統合は、一方が他方を吸収するものではなく、新たな学校を創設するという観点から、充実した教育を展開できるよう教育条件の整備を図ります。

統合する高等学校については、総合学科、単位制高等学校などに改編することも検討します。

統合する高等学校においては、学校行事等それぞれの学校の伝統ができるだけ受け継がれるように配慮するとともに、学校の名称も工夫します。

2 参考人との意見交換

主な意見は次のとおりです。

高校教育の在り方に関すること

参考人 県内高校出身者に限らず、全般的に現在の大学生には、勉強というのは先生の教えることを受け入れて蓄え、それを出すことだという基本姿勢が見られ、知的好奇心に基づく疑問が湧いてこない傾向がある。

委員 事情は同じだが、高校時代に総合的な学習等で論文を書くという経験がある学生は積極的に発言したり、課題意識を持っている。高校の力で変えることはできる。

委員 最近の大学生は変わった。指示待ちでマニュアルがないとできない。茨城出身の学生は、素直でいろいろなものを受けとめることはできるが、国際的な競争や東京との競争には負けるかもしれない。

統合校の成果と課題に関すること

参考人 統合により開校した大子清流高校では、国立大学への進学者が増加したことなどにより、地元の評価が高まり、今年度は大子町内の中学校3年生の49%が大子清流高校への進学を希望している。

委員 新しい学校で成果が上がっているということだろう。

参考人 大宮高校と大宮工業高校の統合により開校した常陸大宮高校は、普通科と工業科を併置する高校であるが、部活動が盛んになったほか、文化祭で普通科の1年生が工業科の実習棟を活用してホバークラフトを製作するなど、これまではなかった意欲的な取り組みが見られた。一方、質の異なる2つの学科を合わせる苦勞はあり、教職員の間で合意形成の努力をする必要がある。

高校進学に係る交通事情や経済状況に関すること

委員 交通の便や経済的理由により高校進学に影響があるということは、県北に限らない問題だが、高校進学に係る今後の交通事情や経済状況をどうみているか。

参考人 交通事情については、現状が維持されていくと思う。経済状況は、地域差が大きい。

参考人 特にこれから悪くなるということはないのではないか。子どもたちが進学する高校を考える時に、行きたい学校があるが交通費の負担を親にかけてしまうと考える場合はあるが、交通事情の変化により通学しにくくなるということはない。

委員 バスの廃止や運行時間の変更などで、通学が難しくなっている生徒がいる。

学級の定員に関すること

委員 高校1年で学校に適應できず退学してしまう生徒がいるとのことだが、生活集団はある程度まとまった数の方がよいとしても、学習集団を少人数化することが退学する生徒たちの歯止めになると考えるか。

参考人 学力が周りの生徒たちについていけないために辞めざるを得ない現状がある。学級の規模は小さいほど子どもに目が届くという実感はある。

参考人 県立高校の学習集団については、現在、理科・数学・英語などの教科を中心に、少人数クラスを編制することがかなりできるようになっている。生活集団としては、学級にまとまった数の生徒がいた方がよい。

参考人 少人数教育は良いに決まっているが、予算をどこまでもかけられるわけではない。授業のやり方や内容をシステムティックに工夫することにより成果を上げることができる。

生徒や保護者の高校教育に対するニーズに関すること

委員 生徒だけでなく、高校教育に対する保護者のニーズも多様化していると思うが、具体的にはどのようなニーズがあるか。

参考人 地域の保護者を考えると、極端に多様な希望を持っているということはないと思うが、農業系列や福祉系列などのほか進学に対応するコースもある総合学科の高校へ進学させたいと考えている保護者は多い。

参考人 子どもたちはアニメを勉強したいとか、ダンスを続けたいなど、自分の興味を生かしたいと考えている。現実には、近隣の高校は普通科中心なので、普通科中心に進学先の高校を選ばざるを得ない状況がある。不登校生徒の存在も生徒の多様化の中でとらえることができる。

各高校に対する評価尺度に関すること

委員 各高校は、それぞれの生徒にあった教育をすべく努力しているが、最終的にマスコミ等に評価されるのは、大学に何人入ったかというのが現実だ。マスコミや保護者が高校を評価する物差しとして、進学指導以外に何か考えられるか。

参考人 保護者は、学校をしっかりと見ている。きちんと就職の面倒をみってくれる私立高校へ子どもを入れたい、という保護者がかなりいた。この学校に行けば、このように面倒をみってくれるというのがあれば、大事なアピールになる。